

## 平成 26 年度 第 8 回豊能町教育委員会会議（11 月定例会）会議録

日 時：平成 26 年 11 月 26 日（水） 午後 3 時～午後 4 時 55 分

場 所：豊能町役場（2 階）第 1 会議室

出席者：教育委員 岸本 恵子委員長 太田 佳子委員長職務代理 川村 新委員  
古谷 治委員 石塚 謙二教育長

事務局 塩山教育総務課長 船曳生涯学習課長 板倉教育支援課長  
川西教育支援課子ども支援室長 入江教育総務課課長補佐

### 会議次第

#### 1. 協議事項

- ・今後の学校配置等に関することについて

開会 午後 3 時

#### 1. 議長（委員長）あいさつ

議 長：ただいまの出席委員は 5 名です。過半数に達していますので、ただいまから 11 月度の教育委員会を開会いたします。会議録署名人を太田委員にお願いいたします。

#### 2. 協議事項

議 長：「今後の学校配置等に関すること」について、事務局の説明を求めます。

事務局：「今後の学校配置等に関すること」の資料について説明。

議 長：本日は、東地区の小・中学校やこども園のことについて協議する。今後、東能勢小学校の児童数が思っている以上に減ってくるが、事務局の説明に対する質疑を求めます。

委 員：吉川小学校は現在 100 人程度で、平成 35 年頃になれば、東能勢小学校もそれくらいの規模になる。

事務局：東能勢小学校の児童数のピークは平成 6 年度で 666 人。当時の高山小学校 23 人を加えると、合計 689 人でした。東能勢中学校は、平成 8 年度がピークで 357 人です。

委 員：児童・生徒の人数が減り、クラスも減ってくるが、ある程度、自分の足で歩いて行ける距離に学校があるほうがよいと思う。

委 員：東地区が先行する形で、隣接型の小中一貫の取り組みをまずスタートさせていき、西地区が追随していく考えもある。もともと東地区は小学校と中学校が 1 つしかなく、隣接しているので、取り組みやすいのではないか。

- 委員：学校は、昔から地域の拠点というかシンボリックな役割を果たしている。東西の学校を1カ所にまとめるのは難しいと思うので、まずは西地区の再配置から先に取り組み、東地区でも学校が残るように、町外から来てもらう施策を検討していくのがよいのではないかと。
- 委員：東地区の小学校と中学校の施設はそのまま、施設分離型の小中一貫校とした場合、教育の内容が変わるだけなのか。
- 委員：児童がクラブ活動として、中学校1年生の授業を共同で受講するような、小学校6年生から中学校1年生へスムーズに移行できるカリキュラムが必要。小学校5・6年生と中学校1年生との合同授業を多くするとか、共通科目を設けるとかの方法がある。小中一貫校では、単にカリキュラムを共通にする以上の効果があると思われる。
- 委員：小中一貫校だと、小学校5年生までは小学校の校舎で学び、小学校6年生から中学校の校舎で学ぶというようなことが可能となるのではないかと。
- 委員：それぞれの学校で校長、教頭、教員組織があり、兼務することになる。例えば小学校6年生の半分の授業を中学校で行うことも可能になり、連携がスムーズになる。小学校の先生は、中学校のカリキュラムを知らない場合があるが、小学校から中学校への連続したカリキュラムを持つと、共通の価値観をもつことができる。
- 委員：現在の状況で東能勢中学校に東能勢小学校の児童が全て入れるのか。
- 事務局：現在の状況では厳しいと思う。
- 委員：中学生のクラブ活動に小学生5・6年生が入ってもできるのか。
- 委員：クラブ活動は可能だが、大会には出れない。
- 委員：中学校のクラブ活動と小学校の特別活動では教育課程の考え方が違うと思う。小学校の特別活動は全員が参加しないといけないが、中学校は教育課程外なので全員参加ではない。
- 教育長：羽村市（東京）の小中一貫教育では、小学生は体験型で、希望者が中学校のクラブ活動に参加しているが、正式な部員にはなれない。
- 委員：小学校のクラブ活動は、地域のスポーツクラブに委託するとか、地域のクラブに加入して土日に活動するようになるかもしれない。中学校のクラブ活動は、専門性を持った外部の者が指導する場合があるが、いっそのこと外部委託するという考えになるかもしれない。中学校のクラブ活動は、重要な学校の教育課程である。
- 委員：中学校では、大会に出れないくらい部員が減ったら廃部になっていると思う。
- 委員：2つの中学校のクラブが連合チームで大会に出るケースもある。高校野球がそうである。
- 委員：その場合、部員が少なくても学校のクラブとして存続はできるが、中学校間の行き来やユニフォーム等の問題などの課題は多くある。

委員：東地区では、小学校1年生と5歳児との交流はどの様にしているのか。

事務局：定期的に交流している。全学年を対象に、5歳児と1・2・5年生、4歳児と4年生、3歳児と3年生で交流している。施設が離れているので、生活科の2時限を続けて時間割を組んでもらっている。もし、施設が近ければ、1時限で交流できるかもしれない。

委員：5歳と6歳のカリキュラムを合わせ、年間の何時間かを、一緒に同じねらいで実施できないか。

事務局：5歳児では、小学校の図工や生活科の授業で、その様な取組を現在でも行っている。

委員：保幼小中の一貫教育は、西地区も東地区も保幼小中は、近い所であればよいと思う。

委員：ひかり幼稚園の送迎バスの空き時間を利用して、ふたば園から小学校まで園児を乗せて交流することができないか。

委員：小学校1年生の授業に5歳児が入るような取組については、国語とか算数は難しいかもしれないが、生活科とか図工とか体育なら、ねらいを何にするかで、毎回は実施できないが、対応は可能と思う。ただ、幼児教育のねらいと、学校教育のねらいが異なるので、事前の準備や話し合い等で、教員が負担に感じないようにする必要がある。小学校と園でお互いのカリキュラムを学べば、少しの工夫で取り組めるかもしれない。

委員：今の東地区の小学校や中学校の児童生徒の数を踏まえ、学校現場はどう思っているのか。

事務局：東地区の課題というのは、小中で9年間、幼保も含めると10年間以上、クラスの組替ができないことが課題である。それを逆手に何か良い取り組みができないか模索している状況もある。西地区でも、今は2学級を維持できても、数年後に1学級になっていけば、同じ状況が起きる。クラス替えが可能な規模を維持することを基本な考えとすれば、クラブや通学の問題があるが、学校を統合し、2クラスを維持する環境つくるようにしないといけない。

委員：事務局の東能勢中学校の生徒数の推計だと、平成32年頃に、70人～80人に減り、仮に平成30年頃の小中一貫教育の形を想像すると、この人数は厳しい状況である。先ほど事務局の説明を踏まえると、中学校を1校にすることも検討しないといけない。

委員：地域の方は小学校がなくなるのはいやだと思うが、中学校がなくなるのは、さほど反対ではないのか。

事務局：ここ何年間の学校からの相談で、区域外通学を許可したケースがあり、中学校を1つにして、大きな集団の中で過ごさせたいという意見もきく。

委員：今日の話では、中学校を統合するのかがどうか、キーワードになると思う。スケールメリットからすると生徒にとってはよいことだと思う。

議長：今までは、東地区は小規模で、西地区は1つにまとめるような思いをしてきたが、東地区の児童生徒の推移を踏まえると、豊能町として中学校を統合することも考えないといけない現実が見えてくる。そうなる東地区の教育をどう考えていくのかという課題がでてくる。

委員：中学校を統合すると、例えば中学校が1校、小学校が3校という選択もある。

委員：そうすると、隣接型の小中一貫校というのは難しい。

委員：それぞれ、東西で2つ小中一貫校があり、交流を図ることで切磋琢磨できるのではないか。

委員：まずは西地区で隣接型の小中一貫校を実施して、その後、児童生徒が減ってくれば、東地区との統合を検討していくというのが現実的ではないか。

議長：今日の議論では、東地区と西地区それぞれに、保幼小中の連携した施設を残しつつ、最終的には1つになることも念頭に動いていけばよいと思う。この考え方で決定ということではないが、今後、話がスタートした時の切り口とすることで、本日の協議を終えます。

## 5. 報告事項

報告事項1：平成26年度ブロック別都市教育委員研修会について

報告事項2：町の教員の全体研修会について

報告事項3：生涯学習課の事業について

報告事項4：文部科学省の学校支援地域本部事業に係る表彰について  
吉川中学校の学校支援地域本部が表彰

議長：以上で、本日の案件は全て終了しました。教育委員会会議を閉会いたします。

○12月度の教育委員会会議について  
\*12月24日（水）午前9時30分開催予定

○1月度の教育委員会会議について  
\*1月28日（水）午前9時30分開催予定

閉会 午後4時55分

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する

平成 26 年 12 月 24 日 署名

豊能町教育委員会  
委 員 長

岸本恵子

会議録署名人

太田佳子